



書評

[評者]

川平 和美

鹿児島大学名誉教授

# 老人のリハビリテーション 第9版

福井 圀彦 原著  
前田 眞治, 下堂蘭 恵 著

●B5 頁440 2022年2月  
定価: 6,600円 (本体 6,000円+税 10%)  
[ISBN978-4-260-04805-7] 医学書院刊



日本は世界で一二を争う高齢化率の超高齢社会である。人口の高齢化の進行のなかで医療と福祉の連携体制強化に努めてきたが、今回の新型コロナウイルス感染症の拡大ではその備えの弱点が明らかになっている。また新型コロナウイルスに感染したハイリスクの高齢者への医療で並存疾患の悪化への対応に苦勞していることから、高齢者へのリハビリテーション医療の体制強化への関心が高まっている。

本書は初版の発刊から50年近くの長い歴史をもつが、常に高齢者の疾病構造の変化とそれに伴う医療体制やリハビリテーション治療の変遷に対応して内容の拡充を継続しており、リハビリテーション医療に従事する者あるいはそれを志す者にとって、常に新しい知識と技術が得られる必読の書となっている。

高齢者への医療では疾病の診断と治療、さらにリハビリテーション医療と、切れ目なく必要な医療を提供することへの重要性の認識が強まっている。特にリハビリテーション医療は、脳卒中や心不全など特定の疾患だけでなく、すべての診療科における基礎的な治療として不可欠な存在となっている。

本書はリハビリテーション医療が置かれた環境への対応の必要性を敏感に反映して、高齢者を取り巻く社会環境の変化や加齢に伴う身体機能の変化の概略を説明した後、

医療における高齢者の尊厳を守ることへの配慮、さらには終末期へのリハビリテーション医療への注意点を述べている。

「Ⅳ. 主な老人性疾患のリハビリテーション」の章では、高齢者に多い中枢神経系から内臓、運動器の疾患までの幅広い疾患を取り上げているが、いずれの疾患についても多くの図表を用いて障害の特徴や治療内容の理解を容易にしている。特に脳卒中については、急性期医療の説明に多くの写真や図を用いて、急性期の手術室から回復期、慢性期への医療の流れを読者に実感させて、その流れのなかで行われるリハビリテーション治療を詳細に説明している。さらに、その画像診断は豊富なCTやMRIを用いて詳細に説明し、病巣部位の診断を容易にしている。高次脳機能障害についても、失語や失行失認、認知症の症状と病巣の関連を、豊富な画像と図表でわかりやすく説明している点は特筆すべきである。

「Ⅴ. 知っておくべき多様な問題点」の章では、ノーマライゼーションの重要性、障害者心理への理解、廃用症候群、嚥下障害などリハビリテーション治療で配慮すべき事柄について、漏れなく取り上げている。

本書が多くのリハビリテーション医療の関係者に愛読されて、高齢者のリハビリテーション治療に残る課題が少しでも解消され、多くの障害をもつ高齢者に恩恵があることを願っている。